

岐阜県安八町における地域とともにある学校づくり —結小学校におけるコミュニティ・スクールの運営と地域学校協働活動 の推進に向けて—

中原真奈美¹⁾・益川浩一²⁾

¹⁾ 安八町立結小学校（〒503-0111 安八郡安八町西結 1065）

²⁾ 岐阜大学地域協学センター（〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1）

1. はじめに

岐阜県安八郡安八町では、コミュニティ・スクールの設置・運営開始から令和5年度で3年目を迎えている。当初は、「具体的なアクションをどのように起こせばいいのだろうか?」「地域と学校の協働が本当にできるのだろうか?」「誰かが指示してくれるのだろうか?」と、関係者の多くは不安に思っていた。しかし、それでは何も始まらない。そして、前に進むことは難しいだろうと考え、「あるものを活かす」という「あるもの活かし」¹⁾の考えのもと、既存の活動を洗い出し、系統化を図りながら地域学校協働活動を進めてきた。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことをいい、安八町立結小学校の学校運営協議会も、保護者代表、区長会長などの地域住民によって構成され、学校運営や教育活動に関わる必要な支援に関する協議をしている。地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係から、地域と学校がパートナーシップに基づき、双方向から働きかけ合う関係になり、これまでの活動をベースにして、子どもの成長を軸にして地域社会の活性化を図る「学校を核とした地域づくり」が目指されている。

2. コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

2-1. コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の必要性

なぜ、今、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が必要なのか。それは、以下のような背景が考えられる²⁾。

人口減少や少子高齢化、グローバル化等の進展に伴い社会環境が大きく変化する中、地域では、人々とのつながり・支え合いの希薄化、家庭の孤立化、教育力の低下などが進んでいる。その一方で、カリキュラム・マネジメントの観点から「社会に開かれた教育課程」の実現、指導内容や方法の多様化、いじめや不登校問題、子どもの貧困、教職員の多忙化・働き方改革等、学校が抱える課題は複雑・多様化してきている。地域・学校双方が抱えるこれらの課題解決に向けて、地域と学校がパートナーとして連携・協働することが必要であり、組織的・継続的に連携・継続できる仕組みの構築が求められている。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進めるためには、まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要である。その結果を踏まえて、幅広い地域住民等が参画することによって、教育活動や地域学校協働活動の充実や活性化につなげていくことが必要である³⁾。

2-2. コミュニティ・スクールのメリット・魅力

コミュニティ・スクールのメリットとして、主に以下の3つが挙げられる⁴⁾。

- ① 学校教職員の異動があっても、学校運営協議会の体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」が構築できること
- ② 「誰かがやってくれるだろう」という考えではなく、当事者意識をもち、役割分担をもって連携・協働による取組ができること
- ③ どのような子どもを育てていくのか、目標やビジョンを共有できること

このように、コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できる仕組みであり、当事者として、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実する。

また、コミュニティ・スクールには、様々な魅力もある。子どもにとっての魅力は、学びや体験活動が充実したり、地域の担い手としての自覚が高まったりすることである。教職員にとっては、地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となり、地域人材を活用した教育活動を充実させることができる。保護者にとっては、学校や地域に対す

る理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれることが期待できる。また、保護者どうしや地域の人々との人間関係が構築できる。地域の人々にとっての魅力は、主に、経験を生かすことで生きがいや自己有用感につなげることができるということである。

このように、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人に様々な魅力が広がっていく。

3. 安八町の現状

3-1. 「総合計画」に基づくまちづくり

安八町は、岐阜県の南西に位置し、揖斐川・長良川に挟まれた南北に細長い地域で、田園風景が広がり、豊かな水と土壌に恵まれた町である。安八スマートインターチェンジの整備が進められるなど、安八町を取り巻く環境や役割は大きく変化してきた。

人口は、令和5年9月1日現在14,428人である。消滅可能性都市に選ばれてはいないが、今後は、人口減少・少子高齢化が進むことが想定され、安心できる状況とはいきれない。

安八町では、激動する社会経済情勢を生き抜き、少子高齢社会や深刻化する環境問題への対応、安全・安心の確保、産業振興など、多様な課題・ニーズに柔軟かつ迅速に対応し、将来にわたり安八町が生き残るための第一歩として、平成27年に「安八町第五次総合計画」を策定した^①。この計画では、人口減少や少子高齢化が進む中、『若者や子どもたちを優しく包摂するまちづくり』を将来像に掲げ、8つの基本目標と実現化に向けた施策である『ストロング8(エイト)』の展開を図りながら、子どもたちを中心とした地域のつながり・連携を大切にしながらまちづくりを進めていくことを柱としてきた。令和5年度で、第5次総合計画が最終年度を迎え、令和6年度から「第6次総合計画」のもと、まちづくりが進められていく。

3-2. 学校の役割と地域学校協働活動

まちづくりのグランドデザインの中で、学校はどのような役割を果たすことができるのだろうか。それは、コミュニティ・スクールの設置と地域学校協働活動の推進ということになるであろう。

安八町には、3つの小学校と2つの中学校が存在している。地域と学校が組織的・継続的に連携・協働できる仕組みを構築し、地域の高齢者、保護者、PTA、自治会等の幅広い地域住民の参画を得て、学校を核とした地域づくりを目指し、令和元年度からの3年計画で、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の立ち上げに向けて、準備が進められてきた。コーディネーターの人材調査と検討を行い、令和3年度には、地域コーディネーターを決定するとともに、学校運営協議会委員を任命し、コミュニティ・スクールを立ち上げた。コミュニティ・スクールの設置・運営開始から令和5年度で3年目を迎えている。

4. 結小学校における地域学校協働活動の現状と課題

4-1. 学校を支援している地域住民参加の事業

4-1.1. 授業支援



農家の方との田植え体験



町探検



ハートピア安八での出前授業

学校を支援している地域住民参加の事業としては、まず、授業支援が挙げられる。総合的な学習の時間や社会科、生活科の時間において、ゲストティーチャーとして、地域の方から戦争体験や米づくりなどを教えてもらっている。校外学習のときには、安全確保のために一緒に歩いたり、危険な場所に立ったりしてもらっている。

また、地域の施設を積極的に活用した学習も行われている。令和5年度も、町の図書館に行っ

て直接図書館司書の方から話を聞いたり、「9.12 豪雨災害展」に出向いて、職員の方から安八町の水害の歴史と防災について学んだりした。また、安八町にあるプラネタリウムを活用し、施設の先生に星や月についても、詳しく教えてもらっている。夏休みや皆既月食などのときにも、特別観望会に親子で参加した児童もいた。

このような授業支援のおかげで、子どもたちの学びや体験活動が充実している。また、地域の方々にとっても、経験を生かすことで、生きがいや自己有用感につながっているように感じられる。

下の表は、地域の方と関わるカリキュラムを示している。今、行っている総合的な学習の時間や社会科、生活科の学習以外にも、地域人材を活用した教育活動を充実させるため、結小学校における年間指導計画を作成している。教職員で共有し、加筆修正をしながら、さらに充実させていけるとよいと考えられる。

表1 結小学校ふるさと学習 年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	全学年 安八町めぐり (1月1日) PTA 旅行代行	家庭教育学級 (子育て講座) (化石レプリカ作り)		家庭教育学級 (プラネタリウム)	家庭教育学級 (おにぎりワークショップ)	家庭教育学級 (親子観察)	生活科「秋のわもちやであそぼう」 子ども観察	家庭教育学級 (親子タマシゴ)	家庭教育学級 (親子タマシゴ)	生活科「わかしからつたおるあそび(おたのしみ)」 地域の卒業生 家庭教育学級 (親子工作)		生活科「新しい1年生を担任しよう」 子ども観察
2年		生活科「野さくをそだてよう」 地域の卒業生	生活科「まもたんけんしよう」 地域のお店等 (西村・山本) PTA 地域ボランティア	生活科「野さくをそだてよう」 野さくりの先生 (地域の方)	・アソビ体験 ・夏休みの参加 ・夏休みの準備 ・地域の清掃 ・長寿寺参拝		生活科「みんなであそぼう」 地域の卒業生 安八町図書館の方	生活科「もういちどたんけんに行こう」 地域の卒業生 PTA 地域ボランティア 生活科「いのちの授業」 動物園の職員さん 生活科「大きくなった自分のことをしるべよう」 (いのちの授業) (2) 町の保護者	生活科「まものすてきをどきよう」 PTA 地域の卒業生 生活科「みんなであそぼう」 安八町図書館の方	生活科「大きくなった自分のことをしるべよう」 (いのちの授業) (2) 町の保護者	・野さくり 地域の卒業生	
3年		社会科「学校のまわり」(校外学習) PTA・地域の方	総合「結小の由来」(校外学習) 交通寺の司職	社会科「商売のしごと」 地域の農業の方 JAの職員			社会科「はてはたらく人」 地域のスーパーマーケットの方	社会科「はてはたらく人」 地域のスーパーマーケットの方	社会科「支那のふるしを守る」 東分署(消防署) 職員 食育指導 栄養士	社会科「事故や事件からくらしを守る」 交番の警察官	総合発表会 PTA 地域の方	
4年		エフピコ田圃 授業 (3R、トレーのサイクルについて)		国語「百人一首 大会」 PTA 地域の方		理科「月や星の 見え方」 (ハートピア プラネタリウム) 天文台の先生	総合「読書展 制作」 社会科 地域ボランティア 天文台の先生				総合発表会 PTA 地域の方	
5年			総合「田圃の 地域の農業の方 の授業」	国語「てあいに とらう」 地域の方			総合「ふるさと 体験」 地域の農業の方			生活科「ミシン にとらう」 地域の方	総合発表会 PTA 地域の方	
6年		水防訓練 安八町役場の 職員 親子学習 建設局 消防団	総合「防災 安八町役場の職 員 防犯教室 保険会社 防災教室 販売店 地域の学習 おかし会社	子ども議会 安八町議会の 議員 町教育委員 マイスター プロジェクト 栄養士		総合「9.12水 害を学ぶ会」 水防訓練 (地域の卒業生) ハートピア職員 理科「月の見え方」 (ハートピア プラネタリウム) 天文台の先生	総合「11月を 学ぶ会」 水防訓練 (地域の卒業生) ハートピア職員 理科「月の見え方」 (ハートピア プラネタリウム) 天文台の先生	消防用防犯教室 (案内係、保護中 給食の献立作り(栄養 士) 防災教室「タイム イン作り」 本町川中町事務所 OKBアスリート(監 修)	生活科「日七て お今日の仕事」 地域の方	教科書 地域の卒業生	総合発表会 PTA 地域の方	
全校	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア	安八町めぐり 地域ボランティア

出所 結小学校作成

授業においては、教職員が一から学ばなければならないような、環境や田んぼの作業、地域の歴史などの専門知識を、地域の方に支援してもらうことで、児童生徒だけでなく、教職員も深く学ぶことができる。

学校を核として地域の特色を生かした様々な体験や学習を展開することにより、子どもたちの地域への愛着が高まり、将来、地域を担う子どもたちが育つと考えられている。学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えていくことを大切に、教職員にできることを考えながら、積極的に地域と関わり、人とのつながりを築いていくことが必要である。

しかし、コミュニティ・スクールの運営が進んでいる現在もなお、地域の方とコンタクトをとることの多くは、学級担任が直接行っているため、今後、組織を整えていくことが必要である。筆者(中原)は、教務主任という立場であるため、自身も地域の方や施設の方とコンタクトをとって、学級担任とつなげることを行っているが、従来の個別の活動を、総合化・ネットワーク化し、組織的で安定的に活動を継続できるような仕組みを整えることが必要であると考えられる。

4-1.2. 防災教室・絵本の読み聞かせなどの行事

令和5年度も安八町役場と連携を図り、地域の消防団の方を招いて、親子防災教室が行われた。

1年生は水消化器の体験、2年生は防災クイズ大会、3年生は防災グッズの確認、4年生は貯水タンクの見学と仕組みについての学習、5年生は簡易トイレと避難所のパーテーションの設営、6年生は土嚢づくりを実施した。少しでも、地域の防災体制の構築につなげたいという願いをもって本教室は実施されている。

また、結小学校では、保護者の方による絵本の読み聞かせが行われている。子ども達は「〇〇さんのお母さんだ。」などと、嬉しそうに読み聞かせを楽しんでいる。保護者の方からも、「子どもたちが喜んで聞いてくれて、私も嬉しい気持ちになりました。」などの感想をもらっている。

この他に、親子での活動としては、親子奉仕活動も実施された。令和5年度は、高学年の児童と全校児童の保護者を対象に広く呼びかけ、多くの保護者の参加をいただいた。次年度は、全校児童の参加を呼びかけ、より多くの保護者の方に参加していただきたいと考えている。

また、令和4年度から新しい取組も着手されている。中学校の生徒会が計画して、校区でごみ拾いの活動を行った。地域の子も達と大人と一緒に歩き、まちを美しくする活動である。令和5年度は、中学生による参加を呼びかけるビデオメッセージによって、何名かの小学生も親子と一緒に参加する姿が見られた。中学生においては、自分たちの手でまちをよりよくすることができるという思いが芽生えたようであった。



保護者による読み聞かせ



親子防災教室



ごみ拾い活動

4-1.3. 安全の見守り

結小学校区では、地域安全サポーターと「結見守り隊」による毎日の登下校時の安全の見守りが行われている。現在、2名のサポーターと「見守り隊」として49名の方が活動してくださっている。

また、下校時には、広報無線で児童の下校を知らせ、地域の方による自主的な見守りも行われている。2月には、地域安全サポーターや見守り隊の方々などを招いて「感謝の会」を開き、子どもたちから感謝が伝えられる。

このように、地域の方から防災や戦争体験、米づくりなどを教えていただいたり、家庭科の授業で学習支援に来ていただいたりするおかげで、子どもたちの学びや体験活動が充実している。何よりも、子どもたちが地域の方とふれあい、ともに活動することを通して、地域の人々の思いや願いを感じ取り、地域の魅力を感じたり、愛着をもったりすることにつながっている。地域の方々にとっても、経験を生かすことで、生きがいや自己有用感につながっていると感じられる。「子どもたちのためになったということ」を聞いたり、子どもたちが喜んでる様子を見たりすると、自分も嬉しくなる。」という言葉を得ている。



「見守り隊」の方との登下校

4-2. 地域講座・行事へ小中学生が参加している事業

地域講座へ小中学生が参加している事業としては、ジュニア文化サークルがある。尺八、絵画、キッズ・イングリッシュ、茶道、書道、華道、水郷太鼓などの13の講座が開かれている。令和5年度の結小学校の児童の参加人数は33人であった。町内の小中学生全員で120人の参加となっている。子ども達が文化活動を通して、自主性や創造性を育み、豊かな体験活動ができる場が位置付いている。

安八町では、「あなたの知識・技術・経験を地域に生かしてみませんか。」と投げかけ、「安八町

生涯学習人材バンク」の登録者を募集し、生涯学習の輪を広げている。これまでの職業・趣味・生活などで自分が身に付けた知識や技術を社会に還元したいという希望をもった方々に登録してもらい、町民の文化活動や体育・スポーツ活動等、様々な生涯学習の場で指導者として活躍してもらう仕組みを整えている。

さらに、地域行事へ小中学生が参加している事業として、「安八水祭り」「安八ふれあい祭り」「ますつかみ大会」などがある。

4-3. 結小学校の地域学校協働活動における課題と改善策

4-3.1 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動への理解不足

コミュニティ・スクールの仕組みを入れて3年目を迎えたが、学校には、時折、地域からクレームの電話がかかってくることもある。学校のことがよく分からない、何も知らない地域の方も少なくはないように感じられる。連携がとれているように見えても、まだ学校と地域との考え方や認識が一致しているとは言い難いのではないだろうか。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動についてよく理解されていない現状から、学校側からも保護者や地域の方たちに発信していく必要があると思われる。地域が学校・子どもたちを応援・支援する一方向的な活動から、地域と学校が目標を共有して行う双方向の「連携・協働」型の活動の充実に向けて、まずは、十分な理解を得ていくことが重要である。また、地域学校協働活動を広く知ってもらうことにより、関心をもつ人が増え、関係する人たちのすそ野を広げることができると考えられる。

そこで、学校だよりの配布・回覧や、学校のホームページ、地域の会議等での説明を通して、積極的に情報を発信していくことを進める必要がある。活動内容だけではなく、なぜ、これから地域と学校が協働して子どもたちを育てていく必要があるのかについて、分かりやすく説明することも大切にすべきである。

また、学校の教職員においてもコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の役割や重要性について、まだ理解が十分でないと考えられたため、令和5年度には夏季休業を活用して、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について教職員研修を行った。そこでは、地域学校協働活動の役割や重要性について確認した上で、各学年の地域学校協働活動を振り返り、KPT法（K：keep 今やっていることで続けていきたいこと、P：problem 課題として捉えていること、T：try 今後やってみたいこと）で交流し、今後の活動の充実に向けて共通理解を図ることができた。

4-3.2 地域学校協働活動の充実と推進員の育成

地域の方に学校教育に参加してもらうことで、教育活動に厚みを生み出すことができる。これまでも地域人材を活用した教育活動は行われてきたが、学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員等のコーディネーターを育成することにより一層充実させることができるのではないかと考えられる。

地域学校協働活動を推進するためには、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割は必要不可欠である。安八町でも、コーディネーターとして活動するために、岐阜大学・岐阜県共同設置のぎふ地域学校協働活動センター主催の地域学校協働活動推進員等育成研修に参加して下さっている方が存在する。これから、地域の課題解決等に熱意をもって取り組んだり、地域の人々と広くつながったりしている人材を複数人見つけ、育成することの必要性が感じられる。広く人を知っている、人とつながりのある方が、コーディネーターとして活躍されることが求められる。

4-3.3. 学校における「働き方改革」を踏まえた活動の推進

学校の役割の拡大により教職員の業務量が増加し、教職員の多忙化につながっている。また、指導内容や方法の多様化など、学校を取り巻く問題は複雑化・困難化してきている。そうした状況の中、勤務の適正化が大きな問題となっているが、学校運営や児童生徒の教育に関わる業務が十分に精選されているとはいいきれない。教職員がいかに仕事を整理し、限られた時間の中で効率よく仕事を行うかが大切であるが、それとともに、地域ボランティアを活用し、効果的な学習支援を行えるとよいのではないかと考えられる。支援としては、

- ・ ミシン実習・調理実習等、個別またはグループ毎に活動進度が異なる技能系学習
- ・ 理科の実験等、事前実験を含む準備や後片付けに時間を要する学習の支援

・放課後・長期休業中の学習支援（習熟度別学習補助、ドリル学習補助等）
などが考えられる。地域の協力により、教職員の負担軽減につながり、さらに、子どもと向き合う時間が確保できると考えられる。

4-3.4. 地域でのワークショップの位置付け

地域とともにある学校づくりに必要なことは、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという目標を共有するために「熟議」を重ねることである。

地域学校協働活動を進めるために、地域と保護者、学校が顔を合わせ、互いを理解し合い、協働への意識を強くしていくことが必要である。そのために、ワークショップを取り入れて、一人ひとりがもっと気軽に意見を述べ合う場を設け、情報や思いを共有することが必要である。ワークショップを取り入れることで、より主体的に関わろうという意欲が生まれるのではないかと考えられる。さらに、そこから生まれた関係性を大切に、行動に移していくための具体的なアイデアを出し、実現していくことができれば、円滑な地域学校協働活動につなげていけると考えられる。

5. おわりに

今日、地域の中での人々の関係が希薄化しており、できるだけ関わり合いたくないという現代の風潮があると言われている。一方で、明るい兆しもある。全国学力・学習状況調査の児童に対する質問のうち、「地域社会に貢献したいですか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が年々増加しているようである⁹⁾。令和5年度の結小の6年生も「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか？」という質問に対して、76.9%が、肯定的な回答をしていた。また、コロナ禍ではあったが、75%の児童が「地域の行事に参加している」と答えていた。この結果が、将来の地域に明るい材料となると思われる。

地域のことが好きで、積極的に地域と関わり、人とのつながりを築きたいという思いをもてるのが大切である。そして、そのまちに住むみんなが、自ら当事者となり、まちをどのようにつくりあげていきたいのかという思いがあることが必要である。「誰かがなんとかしてくれる」ではなく、自分たちで地域をつくりあげていくという気持ちを育てていく必要がある。

どんな活動であれ、実行すれば成果はあると考えられる。失敗事例であっても、次に改善することにより成功につながる可能性が広がるので、それも立派な成果である。決して大きくはないかもしれないが、小さな成功体験を積み重ね、共有する。その達成感、楽しさを共有することで、次の活動へ向かうモチベーションが大きくアップすると考えられる。

今後も、地域学校協働活動を推進することにより、人づくりや地域づくりに貢献し、未来をつくる子どもたちを育てていくことが重要である。

注)

- 1) 各種研修会・講演会等における益川浩一の指導。
- 2) 岐阜県社会教育委員の会 ぎふ地域学校協働活動センター (2018). 『進めよう！地域学校協働活動』。
- 3) 文部科学省「これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」
https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/korekaranogakkoutotiiki_pamphlet2020.pdf
最終閲覧日：令和5年10月17日
- 4) 文部科学省『「学校運営協議会」設置の手引き』
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/tukurikataR2.10.pdf>
最終閲覧日：令和5年10月17日
- 5) 「安八町第五次総合計画(概要版)」
<http://www.town.anpachi.gifu.jp/wp-content/uploads/2015/05/acce098f2d5cdf60aaf2701a78fb7d69.pdf>
最終閲覧日：令和5年10月17日
- 6) 木村直人・相田康弘 (2019). 『未来の学校づくりーコミュニティ・スクール導入で「地域とともにある学校へ」』。学事出版。